

## 本場結城紬後継者育成研修事業

本庄 恵美\* 遠井 光子\*

### 1. 緒言

消費者の生活様式の変化により、着物をきる機会が少なくなったことに加え、景気の低迷も長引き、全国織物産地では年々生産反数の減少を余儀なくされている。結城紬産地でも、生産者価格の低迷、後継者問題等が山積しており、これらのことから伸び悩む結城紬業界の現状を打開しようと、平成8年度より上記事業を始めることになった。

### 2. 研修内容

第一ステップでは、ほとんど切れることのない絹紡糸を縦糸に使用して、単帯を作製した。織機にのせる前の縦糸の準備として、整経、おさ通し、機巻き、かけ糸かけを行い、製織の主動作である開口、緯入れ、打ち込みの三動作を縦糸をたるませないように円滑に行えるよう研修した。

第二ステップでは、撚りはあるが、手紬糸により近い手紡糸を縦糸に使用して、単帯を作製した。下拵えの中では特に重要な糊付を学んでもらい、糊の炊き方、助剤の使用法、糊付方法等を研修した。また、製織の主動作の他に、縦糸つなぎ、緯管替え、前おろし、緯管巻き等の補助動作も研修した。

第三ステップでは、縦糸、横糸ともに手紬糸を使用して着尺地を作製した。縦糸つなぎや、糊の弱くなった部位につける糊付方法も学んでもらった。又、検査規格に沿った横糸打ち込み本数にも注意して製織作業を行った。

その他に、ポッチ揚げ、糸とり、染色等も学んでもらい、結城紬のひとつおりの生産工程の研修を行った。

### 3. 研修作品例

#### 3.1 結城紬着尺地

##### (1)糸使い

縦糸・・・手紬糸140D

横糸・・・手紬糸105D

##### (2)組織・・・平織

(3)密度・・・132×118本/鯨寸間

##### (4)織機・・・地機

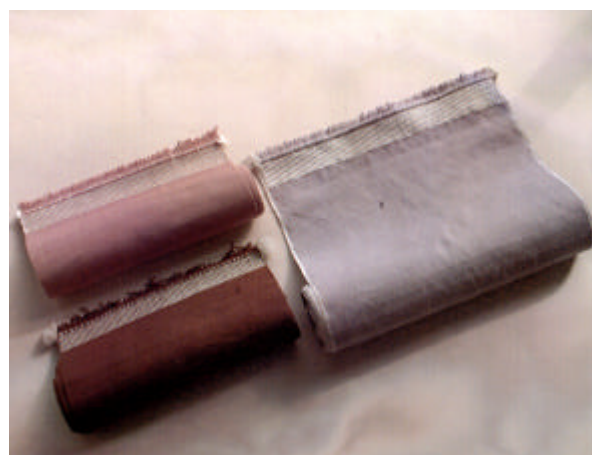


図1 研修作品(単帯, 着尺地)

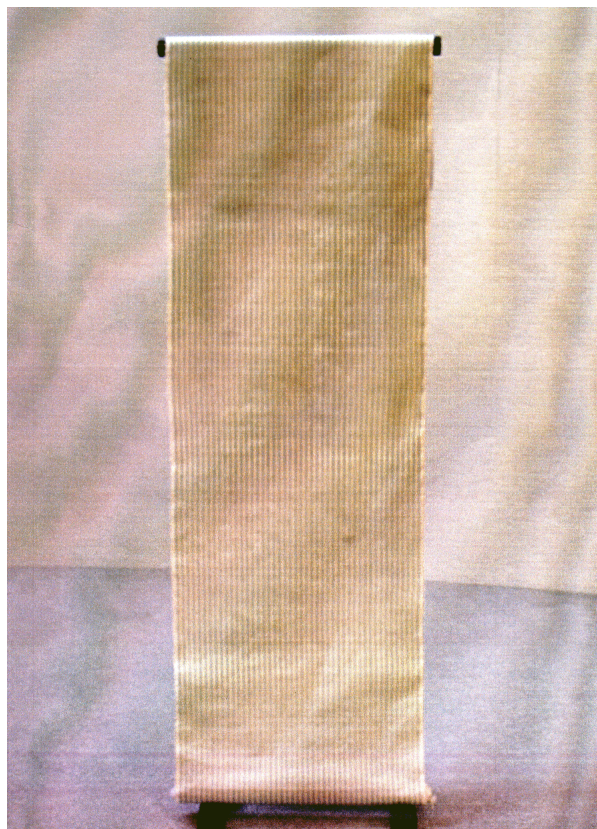


図2 研修作品(着尺地)

### 4. 結言

結城紬は、その技法が重要無形文化財として指定を受けた数少ない繊維製品であり、芸術品と言っていいほど高価なものである。その生産と販売には社会的分業によって多くの業者が参加しているが、織り手には必ずしも芸術品の製作にふさわしい所得が与えられているわけではない。結城紬の産地全体を経済的に統合しているのは問屋であり、問屋の機能の維持向上を期待しながらも、産地一体となって、織り手側に可能な限りの援助を与えるべきだと感じた。

本年度は2名が研修を終了し、1年間で3反製作したが、これで後継者として1人前にやっていけるかどうかという不十分な面もある。緋模様の製織技術の習得も今後考えていかなければならない問題である。又、現場の技術をとということで、伝統工芸士の方にもきていただいたが、今後は指導所の技術と融合させて、研修生が理解しやすいよう、より実践的なマニュアル作製も検討していきたい。

\* 繊維工業指導所